

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和2年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	令和2年8月28日(金)		
開催場所	小金井市 中間処理場		
出席者	委員	<出席者：12名> 渡辺会長・大江委員・石田委員・勝又委員・岸野委員・山田委員 黒須委員・齋藤委員・多田委員・波多野委員・石原委員・林委員 <欠席者：3名> 岡山委員・土屋委員・堀越委員	
	事務局	深澤ごみ対策課長・花野ごみ処理施設担当課長兼中間処理場担当課長・府川・高田・山下・高花	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 会議録の確認について 2 報 告 (1) 清掃関連施設整備計画の進捗状況について (2) 新たな資源物の回収について (3) 食品ロス削減推進協力店・事業所の認定について (4) 食品リサイクル堆肥の配布及びくつ・カバン類の拠点回収について (5) 可燃ごみへの水銀混入について 3 議 題 小金井市一般廃棄物処理計画における評価基準の検討について 4 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他			

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	<p>これより令和2年度第2回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>本日の欠席委員について、岡山委員・土屋委員・堀越委員より、欠席の連絡を事前に頂いている。</p> <p>次に、本日の進行及び配布資料についての確認を事務局からお願いしたい。</p>
府川減量推進係長	<p>(配布資料確認)</p>
渡辺会長	<p>前回、令和2年度第1回審議会の会議録について、意見・修正があれば申し出ていただきたい。</p> <p>特になければ事務局にて公開手続きに入る。</p> <p>では次に、本日事務局より提出された資料についての報告と説明を求める。</p>
府川減量推進係長	<p>(「清掃関連施設整備計画の進捗状況について」説明)</p> <p>(「新たな資源物の回収について」説明)</p> <p>(「食品ロス削減推進協力店・事業所の認定について」説明)</p>
高田清掃係長	<p>(「食品リサイクル堆肥の配布及びくつ・カバン類の拠点回収について」説明)</p>
花野ごみ処理施設担当課長兼中間処理場担当課長	<p>(「可燃ごみへの水銀混入について」説明)</p>
渡辺会長	<p>事務局からの報告について、意見・質問はあるか。</p>
勝又委員	<p>不燃・粗大ごみ処理施設には、個人の持ち込みは可能なのか。</p>
深澤ごみ対策課長	<p>この施設への個人による持ち込みは、現時点では考えていない。しかし、中間処理場の建て替えが終了すればスペースに余裕ができるので、その時に改めて、市民が持ち込んだ場合に安全を確保しつつスペース的にも余裕があるか否かを検証し、受け入れについて判断する予定である。</p>

(審議過程) 主な発言等

波多野委員	いままでのリサイクル事業所のような形はとらないと伺っているが、ここにある展示スペースはどのような目的であるのか。
府川減量推進係長	木製家具については、1階で補修をかけて2階の展示スペースで保管と展示を行い、市民へ販売もしくは譲渡する予定である。 今後の展開としては、建設予定の新庁舎に設ける予定の環境部のブースにモニターを設置し、ここに保管している家具などをカタログのように市民に見ていただき、販売等できるようにしたいと考えている。
渡辺会長	展示販売するにはスペースが狭いように思えるが、現在のリサイクル事業所のスペースと遜色はないのか。
府川減量推進係長	現在のリサイクル事業所というのは小型家具や小物類などを販売するということになっており、その形態のまま、こちらで行うことは難しい。スペースとしては狭いが、モニターなどを活用して展開していきたい。 展示スペースの隣に研修室もあるので、環境学習の一環として、そちらにリユース品を展示することもできる。
波多野委員	別途保管倉庫があるわけではないということか。
府川減量推進係長	建物の中の置けるスペースに置くということはあるかもしれないが、保管倉庫というものは特にない。
多田委員	研修室は、中間処理場の建て替えの際の代替施設ということでよいか。
府川減量推進係長	中間処理場は令和4年度以降取り壊しに入っていくため、その間の研修室はここしかないが、中間処理場の運営が再開する令和7年度からは、二枚橋の積替え・保管施設と中間処理場の2か所の設置となる。

(審議過程) 主な発言等

多田委員	ここにある都の事務所というの何か。
府川減量推進係長	本庁舎に設置していた大気測定機器を、耐震の都合上移設しなければならなくなった。現在は市内の別の施設に設置しているが、都から恒久的な移設先が必要であるため検討して欲しいという要請があり、二枚橋の施設整備とタイミングが合致したため、可能な限り協力することになった。
多田委員	バスケットコートというのは市民のみの使用となるのか。
府川減量推進係長	メインとなるのは災害廃棄物の一時保管場所であるが、日常的な使用用途として、片面でも十分楽しめるバスケットコートを提案している。
多田委員	災害の際の仮置場には、一次置場や二次置場などがあるが、どちらを想定しているのか。
高田清掃係長	一次仮置場で終了する場合もあるし、二次仮置場を設定する場合もあるが、二次仮置場は処理をする場所にもなるので、二枚橋の施設と中間処理場については、一次仮置き場として考えている。
石原委員	リサイクル事業所では自転車が売れ筋だったと思う。今後販売を行わない場合、どのようになるのか。
花野ごみ処理施設担当課長兼中間処理場担当課長	自転車自体で考えれば金属としての処理となるが、リユース事業として考えると、今後の施設整備を進める中で事業者提案として提案していただき、それによって決まることになる。
林委員	一年以上に亘り、自転車はリサイクル事業所で扱っていないので、粗大ごみとして排出されているはずである。それはどのように処理されているのか。
石原委員	例えば、事業者提案で、事業者が引き取るというのであれば、それはそれでよい。現在どのように処理されているのかが知りたい。

(審議過程) 主な発言等

花野ごみ処理施設担当 課長兼中間処理場担当 課長	現状では、粗大ごみとして中間で破砕処理している。今後、現在のように処理していくのか、リユースしていくのかというのは、二枚橋の処理施設での運営管理業者のやり方によって変わってくると思う。
林委員	市の方針というか、どのように扱うのかという基本的な考え方は、なければいけないのではないかと。 自転車だけではなく、家具などが粗大ごみとして排出されたときに、修理する、しないの判断は誰がどのタイミングで行うのか。具体的な手順を決めておかなければならないことは、たくさんあると思う。以前から事業者の提案を実施されているが、そろそろ市としての実施に向けた方針を議論していただきたい。そうしなければ、ここで出ている内容はいつまで経っても解決しない。
石原委員	海外では、廃棄物に関しては、常にそれを資源として考えるようになっている。事業者からの提案を待っているだけではなく、こういうものをやりたいからそのための提案をしてほしいということが必要なのではないかと。林委員の言われるように、市としての考え方をどこに置くのかということを決めなければ、いつまでも同じ質問が出ることになる。
林委員	このスペースでできることには限りがある。それを、それまで処分していた家具を販売します、ということには無理がある。研修室を利用するとしても、壁があるから運び出す必要があり、現実的ではない。 カタログのように市民に見ていただくとしても、そのためには、ある程度のストックを確保しておく場所が必要となる。そういったことを具体的に示していただいたほうが、市民が納得できるのではないかと。
石田委員	1階に身障者控室があるが、これは従業員用なのか。多目的トイレは2階にしかなく、見学者の方が使用するのだと思うが、従業員の方が利用するのであれば、不便なのではないかと。

(審議過程) 主な発言等

府川減量推進係長	運用事業者を決定していく中で、高齢者や障がい者の方の雇用も検討していただくことを前提として募集をかける予定である。そのため、設計に際しては、運用についても意識し、1階に身障者控室を設けたが、スペースに限りがあるため、多目的トイレは2階のみの設置となった。そこで、多目的トイレを利用する方が雇用された場合には、申し訳ないが、トイレだけは2階を使用していただくことになる。
石田委員	せっかく雇用されたが仕事をするうえで非常に不便だった、ということのないように配慮していただきたい。
石原委員	報告事項の項目にはないので次回でもよいが、セブンイレブンのペットボトルのリサイクル回収について、進捗状況を知りたい。
深澤ごみ対策課長	回収と一時保管場所が課題となっているため、現在業者と調整を行っているところである。我々としてもぜひ始めたいと考えているので、解決次第報告させていただく。
渡辺会長	リユースを進めることが重点項目でもあるので、スペースに限りはあるが、進められるような施設にしていきたい。 コンタクトのケースは、どのくらいの量が集まるのか。こういった類の場合、集めるコストのほうが、寄付される金額以上にかかるということがある。
府川減量推進係長	小さいものであるため、効果的なごみの減量ができるのかというと難しいところではあるが、市として費用がかかることなくプラスチックごみが減るところと、啓発というところで、メリットにはなると考えている。 ちなみに、アイシティに確認したところ、ごみ量という意味では、全国で1年間に回収した量は44トンということであった。
渡辺会長	水銀混入が短い間隔で続いてしまったが、浅川に限らず、広域支援でお願いしているときも、焼却場で同様の事態は起きていたのか。

(審議過程) 主な発言等

花野ごみ処理施設担当 課長兼中間処理場担当 課長	浅川に限ったことではない。基準値が厳しく設定されているので、一時的に出してしまったということは、浅川に限らず、広域支援先やそれ以外の焼却場でも聞いたことはあるが、どこも基準値を超えることがないように、慎重に運用進めている。
渡辺会長	他に意見・質問等はあるか。 では議題に移る。本日事務局より提出された資料について説明を求める。
深澤ごみ対策課長	(「小金井市一般廃棄物処理計画における評価基準の検討について」説明)
府川減量推進係長	(配布資料説明)
渡辺会長	事務局からの説明に対して、意見・質問等はあるか。特になければ審議に入る。 昨年度の審議会でP D C Aサイクルの見直しについて審議を行い、ロードマップを毎年度更新しながら施策を展開していくということになった。今回事務局より、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、以前提示されたロードマップ案をそのまま使用できないということで、改めて示されている。 どの取組もごみの減量のためには必要なものであるが、その中でも特に重点的に施策を展開していく必要があるものを基本計画で重点項目として、審議会ではこの重点項目について審議を行うとしたのはご承知のとおりである。 それでは、ここにある9項目について順番に進めるが、時間の制約もあるため、1つの取組につき10分間を目安に審議を行う。
林委員	全体的に、ロードマップというのは、こういうものでよいのか。コロナで事業が進まないということは理解できるが、例えば食品ロスの削減を見ると、令和12年度の最終目標が「中間目標の目標値が達成できている状態」となっており、これが10年後の最終的な姿となる。では、中間目標は何かというと、中間目標の設定年度が令和7年度であるから5・6年先のことになる。そうすると、令和2年から令和6年度までの間は、食

(審議過程) 主な発言等

<p>事務局</p>	<p>品ロス削減の推進について何をやるのか、ということになる。この項目だけではなく、他についても疑問が湧いてくる。これでロードマップといえるのか。</p> <p>ご指摘のとおり、5年後、10年後に何をやるのか、10年後の目標を決めて、それでいいのかとなる。確かに、令和12年度までが記載され、中間目標も最終目標も具体的ではないが、これはあくまでもロードマップであり、2年、3年後の目標と、それを踏まえた4年、5年後というように、毎年書き換えていくものである。例えば食品ロス削減についてみると、来年度が「食品ロス削減計画を策定しました」ということになれば、そこで「計画に則して4年後、5年後はこういったことをしたらよいのではないか」ということになり、ロードマップの上書きをする。</p> <p>最終目標は、ごみの減量であることには変わりなく、その減量をどのように進めるのかというのは、ひとつひとつ積み重ねていくしかない。その指標となるのがロードマップであるわけだが、いまここで「5年後はこうしましょう」と決めるのではなく、ロードマップの意味は「ここは達成できたからもっと進めましょう」とか「達成できなかったから見直しましょう」というPDCAサイクルに繋げるものである。</p> <p>ごみ量については、社会情勢や人口の増減による影響もある。そのため、いまここで目標値を定めるのではなく、あくまでもロードマップとして、中間目標や最終目標は具体的ではなくても、2年度、3年度の目標と、それを踏まえて4年度、5年度の目標というように順次進めていければと考えて、この案をお示ししている。</p>
<p>林委員</p>	<p>ロードマップというのは道筋である。基本的に、あるところに到達するための道筋で、それは一度決めたら変えてはならないというものではない。当然、ローリングプランとして年度毎に見返して、見直しをするものである。今回の案では、道筋の途中途中の目標があまり明確になっておらず、どちらかというところ、ただその時に作業だけを行っているという感じである。計画書を作るとか、調査をしますといったことは、いまの時点で必要ないのではないか。例えば3市のごみ減量市民会議で</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>は、可燃ごみを減らして30年後にゼロにしようということになり、それならば、まず10年後に可燃ごみを半分にしようという目標を掲げ、そのために何ができるかということをお皆で考えていくという活動をしている。そういう観点でいえば、ロードマップというのは、やはり途中の道筋が何か描けるようなものにならなければ、これでおそらく1年間の作業が終わると思う。審議会の中で議論しなければならぬか否かは別として、やはりここにその方向性ができるようにするほうがよい。例えば、ごみゼロ推進会議という実際に市民が活動している団体があるので、そういったところに何ができるかということをお投げかけていけばよいのではないかと。</p>
渡辺会長	<p>これを見ていると、令和7年までは具体的な目標値を作らないというふうになっている。</p>
林委員	<p>年毎に書いてあるだけで、ロードマップのない頃と変わっていない。</p>
渡辺会長	<p>具体的にいうと、食品ロス削減については、昨年度は今回の組成分析調査の結果がまだ出ていなかったし、事業系ごみに関しては、浅川の可燃ごみ施設が稼働前だったため、どれくらいの量が搬入されるか不明確の状態だった。しかし、現状であれば、昨年度の組成分析調査の数値は出ているし、事業系ごみに関しても数か月の実績はあるので、目標値を示せないことはない。</p>
林委員	<p>食品ロスの削減で、例えば家庭から出る食品廃棄物のうち、未使用のモノがこんな割合で排出されているということを広報で訴えるような活動をしてよい。それをひとつの目標にして、そのあと再度組成で量ってどの程度減ったかということをするというやり方もある。そういった細かいことを一つずつ考えないと、いままでと同じことを続けていっても、改善は期待できない。</p>
石原委員	<p>基本的には、計測できないことは管理できない。キャンペーンなどもあるので、全てが数値に置き換えられないと思うし、</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>現状の数値を全て把握することは非常に困難かもしれないが、大枠でもわかっているのであれば、目標値というものをある程度設定し、それを前提に年度単位で何をしていくかを決めていかないとロードマップにはならないと思う。基本的に、ロードマップを作るときは、必ず全ての数値を出して目標を決めて、できるかどうかは別として、それを目標値に設定する。その目標値まで常に努力してP D C Aを確認するというこの方法じゃないと、進まないのではないかと思う。今回ここに出てきているが、これに準拠するとかではなく、もう一度そこ考えていかないと、物事が進まない。</p> <p>前計画で、目標値が実態と乖離しすぎているという指摘を頂いていたが、あくまでも目標であり、市としては、ここを目指していると回答していた。しかし、目標だからとはいえ、そこに追いつかないのであれば何か考えなければいけないし、であれば逆に数値として載せない方がよいのではないかというご意見をいただいていた。そういった経緯で、ここでは数字ではなく言葉で置き換えている。目標を数値に置き換えた場合、例えば、何人来てほしいといったことが目標になったときに、実際には目標が高すぎたとわかって目標を変更すると、見方によっては前年度を下回ることが目標といえるのか、ということになる。</p> <p>今回お示ししているのは、ロードマップを一方的に決めるのではなく、委員の皆様以案を見ていただき、目標を含め「この取組は、こうするよりも、このように進めた方がよいのではないか」というご意見をいただこうと考えたからである。</p>
事務局	
林委員	<p>これではロードマップにならないのではないかとやっているだけであるし、全てを数値に置き換えて数値目標を決めなければならないとも思っていない。可能な限り数値にすると、改善点が見えるし、P D C Aも回しやすくなる。</p> <p>絶対に達成できないものを掲げて実施するというのはやはりどうかと思うが、目標をどう設定したらいいかということきちんと議論しなければならない。例えば、数値が合わないのであれば「10%増やす」とするなど、もう少し違う観点から目標設定をしてもよいのではないか</p>

(審議過程) 主な発言等

事務局	そういったところをご意見いただきたい。
林委員	ごみゼロ化推進員の活動支援について、例えば取組内容を見ると令和2年度が活動状況の把握、令和3年度に課題の抽出、令和4年度に見直しの検討、令和5年度から結果を踏まえた新しい展開となっており、時間がかかり過ぎている。このへんはもう少し進めて、必要であればごみゼロ化推進会議にも声をかけていただき、市役所が考えている課題と市民が考えている課題のすり合わせをして、もっと早く進めていけるのではないか。ぜひ個別に関係者を割り当てて、ロードマップを充実していただきたい。
府川減量推進係長	今年度は、本当に難しいと改めて感じている。やはりコロナの影響がかなり大きく、ごみゼロ化推進会議の改革についても、内容を聞いてはいるものの、総会や役員会すら一度もできておらず、手を付けることができていない。スピード感をもってやらなければならないということは重々承知しているが、イベントもやろうと思ってもできない、ワークショップもできない、処理施設に見学に行こうとしても相手先から断られるといった制限を受けるなど、かなり動けない状況というのがあることはご理解いただきたい。そういったこともあり、申し訳ないが数字的な目標設定というのも難しいと感じている。
石原委員	一緒に進めていくために、自分たちの行動目標だけでもはっきり決めていただいた方がやりやすい。
石田委員	実際にこの計画を有効的で内実のあるものにするのであれば林委員の言われるとおりだが、今年度だけは緊急事態ということで割り切って、いまからでも特別な計画を練り直せばよいのではないか。3月までにこの状況でできることを絞り込んで、やることを明確にしたうえで、令和3年4年度のほうは少し余裕ができるから、そこで実施するということを前提に、来年度改めてきっちり提案すればよいと思う。 提示された案を見ていると、計画が立てられない中で無理に

(審議過程) 主な発言等

事務局	<p>作ったように見受けられる。</p> <p>一応、この計画は、今後もいまの状況が続いた場合の案となっている。もちろん来年度、あるいはどこかのタイミングで状況が変われば、通常通りかもう少し充実させていくことができると思うが、現時点で作成するとこれが精一杯というところである。</p>
渡辺会長	<p>ただ、具体的な目標設定に向けて、こういったことができるのではないかとか、こういった情報を把握する必要があるとか、そういったことを、いま出さないと進まないかと思うので、各々具体的なことに関して気が付いたことがあれば、この場を出していただきたい。</p>
林委員	<p>例えば、小中学校を対象とした環境教育の推進でいうと、満足度調査方法よりも、動けないのであれば、動けないなりにいままでの実態を精査する機会にはいかがか。</p>
渡辺会長	<p>そういう実態といった場合に、何が重要だと皆さんが思っているのかを、やはりここで検討していく必要があるのではないか。漠然と実態と言われても意味がわからないので、例えば体験学習とか、この施設に見学にくる小中学生の数というような、どんな指標が重要だと考えられるかということも提案していけばよい。</p>
林委員	<p>それであれば、取組内容でも「推進」という言葉が多用されているが、「推進」とはなんですか、となる。推進という言葉を使う以上は、なにがしかが念頭にあると思う。そこを議論せずにただ「推進」とだけ言ってわかった気にならず、「推進」といって何をするのかと考えれば、例えば、見学会や体験学習などが出てくると思うので、そういったことから考えてみたらよいのではないか。</p>
渡辺会長	<p>それでいえば、食品ロス削減の推進はわかりやすい。具体的にいうと、例えば最終的には食品廃棄物中の可食の割合を減らすということではないかと思う。</p>

(審議過程) 主な発言等

山田委員	<p>そういったことを、重点項目について挙げていってもらいたい。</p> <p>コロナの影響で外食せずに家で食事をするようになり、日々のごみが相当量になった。特にプラスチックはものすごい量が出ており、おそらく市民の皆さんもそれを体感していると思う。実際にごみとして出されている量を早く数値として発表していただいて、こんなに増えているということを市民に知ってもらい、どうやったら減らせるかをここで議論できればよいと思う。</p> <p>周知方法についても、ネットなどの活用も考え、イベントができないという以前に、具体的にどういう形で情報を発信するかを検討するのも必要なのではないか。</p>
渡辺会長	<p>夏休み生ごみ投入は実施したのか。</p>
岸野委員	<p>中止した学校と、実施している学校がある。</p>
渡辺会長	<p>土曜生ごみ投入で、コロナによって何かしらの傾向が出ているようなことはあるか。</p>
岸野委員	<p>地区によってはわからないところもあるが、自分が見ている限りでは、だいたい例年通りかと思う。</p>
石原委員	<p>実際ごみ量は数値的に増えているのか。</p>
花野ごみ処理施設担当課長兼中間処理場担当課長	<p>主だったところを3月から月平均で見ると、可燃ごみが約10%、プラスチックが約10%、不燃ごみが約20%、粗大ごみが約10%、それぞれ増えている。4月から6月にかけて、不燃ごみとプラスチックごみが増えているという実感はあった。小金井市では、都心の方に出勤される方が多いと思うので、緊急事態宣言が発令されて、企業も在宅勤務を強制的に実施するといった中で、家庭ごみが増えてしまうのではないかと思う。</p>
石田委員	<p>現在はコロナ禍の中でごみが増えているというわけだが、これが、一応正常時という状況になったときに、果たして新型</p>

(審議過程) 主な発言等

<p>深澤ごみ対策課長</p>	<p>コロナによる感染拡大が始まる前の排出量まで戻せると想定されているのか、それとも何らかの手を打たないと戻らないと想定されているのか。</p> <p>個人的には、元に戻るの難しいと考えている。皆様もご承知のとおり、生活様式を変えていかなければならない。例えば週5日都心に通っていた方が在宅勤務をされるということは、ごみの出し方も変わってくる。そういったこと想定しているので、何か手を打っていかないと、新しい生活様式に耐えられなくなると考えている。</p>
<p>大江委員</p>	<p>直近の課題で言えば、4月の時点に戻る、戻らないというよりも、より改善すべきは改善し、それをよい方向へ持っていくということをするということである。</p> <p>このロードマップでいえば、実施しながら見直していくとはいえ、確かに7年度の間目標まで目標が定まっていないというここだけを見ると、マップに出ていないと把握しづらく、それではロードマップとは言えないのではないかとということもよくわかる。しかし、コロナの影響を大きく受けているということも事実である。</p> <p>そういったことも含め、令和2年度に関しては、いろいろな事が実施できないということは事実だと思うので、先ほど石田委員が言われたように、3年度以降にどうするのかということ、次回以降に決めればよいのではないかと。</p> <p>ただこの検討をしていくときに、定量的に出すと、ものすごく細かくて難解的な意味のないことにしか目標値に決められないのもあり、必ずしもベストだとは言えないこともわかっているんで、それを踏まえて定性的なものも含めて目標設定ができればよい。</p> <p>1月から8月までの8か月間くらいのデータはつかめているはずなので、それを大切な半年間のデータとして比較を出し、今年度はこんな風になってきているということを示していくのも、一つの根拠として考えることができると思う。そして、そういったことを次回までに基本データとして出してもらって、このロードマップを再考すべきではないかと思う。</p>

(審議過程) 主な発言等

渡辺会長	現状どういったことまで把握しているかということを見てもみないと、ということではいか。
石原委員	現在、職員の勤務体制はどのようになっているのか。
府川減量推進係長	通常の勤務形態に戻っている。
渡辺会長	それに関連して、市職員に対するごみ減量・分別の周知徹底というところで、在宅勤務があったことで、紙の書類を減らすなどといったことになっていくのではないかと思うが、この数か月間で、排出されているごみの量や紙のリサイクル率はどのようになっているのか。
府川減量推進係長	市も大規模事業所であるので毎年度調査を実施しており、一年度合計量での把握はしているが、月次での把握はしていない。市のごみの管理は管財課が行っており、第二庁舎については、管理会社が行っている。おそらく月次でわかると思うが、いまここではわからない。
石田委員	P D C Aを回すため出しておいてほしい。 P D C Aは1年間で回して結果をチェックするのではなく、その時々で不整合があれば修正をしてフィードバックを掛けるということが、実は最も大切なことである。それをしても上手く回らない場合は、目標や、方法、概念などに誤りがあるから直す、というもので、それが最終的なアクションになる。それがうまく回らないと、いつまでも形式的なものになってしまう。
渡辺会長	リユースルートの構築というのも、何のリユースを考えていたらいいのかということもそれほど明確になっていない いまのところ挙がっているのは、今日の話題でいうと家具と自転車、それ以外にもあるかもしれないが、何を把握するのかというのを考えていかないとと思う。 生ごみ資源化に関しては、生ごみ投入のほかには、何があるかということになる。

(審議過程) 主な発言等

林委員	飼料化について、具体的に進めたいと聞いている。それについて少し具体的に進めておいていただきたい。
事務局	本来であれば、今回の視察は飼料化施設を予定していたが、コロナの影響で、現時点では行けていない状況である。
林委員	そういったことがロードマップに記載してあったほうがよい。
事務局	ロードマップには記載していないが、例えば「見える化対象事業の選定」のところで、中止になった市民まつりに替わり、キャラクターを使ってツイッターに各事業を紹介するなどしている。また、ユーチューブのアップや、中間処理場を使った環境教育も企画しており、後日報告できればと考えている。
渡辺会長	見える化は、何をもって目標が達成されたかがわかりにくい。そのため、目標設定が難しい。
林委員	やはりアンケートを実施して認知度を図るしかない。啓発というのは、そういうものであると思う。
石原委員	例えば施策や取組の見える化ということで、例えば3月から7月の可燃ごみ、プラスチックごみ、不燃ごみ、粗大ごみが、こんなに増えているということを発信したほうがよい。 施策そのものの見える化ではなく、「こんなに増えているから、皆さん減らす努力をしてください」ということを、ツイッターなど様々な媒体を利用して、1週間に1度でも出した方がよいと思うし、そういったことも見える化である。 漠然と増えているということだけをお知らせするよりも、数字で出した方がインパクトがある。
渡辺会長	見える化でいうと、分別区分でも処理量でも細かいデータがたくさんある。そうすると、何を知らせたいかということと、市民としては何が知りたいということを考えていけなければならない。

(審議過程) 主な発言等

石原委員	ごみの全体的な量と、市民1人あたりのごみ処理コストが知りたいのではないかと思う。
林委員	市民が知りたいことというよりも、どちらかという市がお知らせしたいことなのではないか。いま発信するとすれば、コロナ禍でどれだけごみが増えているか、ごみの減量と分別について、などを市が発信すればよいと思う。
岸野委員	廃棄物会計も、数値が違うだけで毎年同じである。もっと市民にわかるようにして、夏休み生ごみ投入の時期に間に合うように、市報にももっと早く掲載してほしい。
石田委員	ロードマップについて、いろいろな意見は出たが具体的な提案はあまり感じなかった。このまま事務局に進めてもらうのか、あるいは再度我々の中でも次回までに提案を出すのか。いずれにしても、今年度については、いまから提案しても多くのことはできないので、むしろ令和3年度以降、令和7年度くらいまでを目標にして、もう少し我々が具体的に提案をするのか、事務局から提案を受けるのか。
大江委員	事務局も一新しているし、新しい方もいらっしゃるので、今日がロードマップの検討の第1回目ということにする。ロードマップの位置付けについて、ロードマップとは何で、どういう目的で、どのように作成していて、委員の皆さんにはこういうところをこうやって意見出してもらいたいということは必要であると思う。 初回の議論として、狙いと目的、具体的なものも理解していないと意見を出しづらいので、次回までに今年度は何を行うか、今年度を踏まえてどのように進めるのかを事務局に再考し、改めてロードマップを提案していただきたい。
事務局	次年度の処理計画を策定するうえで、委員の皆様にも上半期の実績と昨年度の実績を比較して見ていただきたいと考えており、昨年度了承いただいていたロードマップの下に、実績報告と諮問案を作成する予定でいた。しかし、今年度はコロナの影響でロードマップの修正が余儀なくされたことから、今回修正

(審議過程) 主な発言等

大江委員	<p>案をお示しさせていただいたところである。</p> <p>次回は、今年度の施策と上半期実績を軸に、それに応じた昨年度実績という形で実績報告を作成したうえで、新たなロードマップ案を改めて作成してご提案させていただく。</p> <p>これは、何年も議論しながらここまできたものであるので、その背景を踏まえて皆さんにお知らせした方がよい。そうすれば、目的意識もはっきりしてくるのではないか。</p>
黒須委員	<p>何のためにこれを議論するのかということがある。ごみ問題全体の中での位置や課題について、具体的に単純に言っていただくとわかりやすい。</p>
石田委員	<p>ロードマップという概念が何であるかという、必要性を始めに入ればよい。計画書を意味のあるものにするためには、ロードマップは必要である。</p>
渡辺会長	<p>他に何かあるか。</p> <p>それでは、以上をもって審議会を終了する。</p>